

1 指導概要

教 科		科 目		
芸術		書道Ⅰ	単位数： 2単位	
指導目標：書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
1. さまざまな作品の鑑賞と臨書を通して、自分の目指す芸術的で多様な表現を習得する。				
2. 実用書道を通して知識と実践的な技術を習得する。				
メディア視聴		事情に応じて許可（東京書籍） ①視聴講座を 100%視聴 ②確認テストクリア	60%	教科書 東京書籍「書道Ⅰ」
スクーリング		1 単位時間×8 回	合格時間数 8 時間以上	学習図書 自校作成の教材資料を使用
レポート		全 6 回	合格枚数 6 枚	副教材 なし
回	高校通信教育講座 （単元・学習内容）		レポート （締切期日）	スクーリング （日程と内容）
No. 1	書写から書道へ 書写の基本（楷書、行書、配列の基本） 用具・用材（筆、墨、硯、紙）と執筆法		第 1 回 （5/30）	第 1 回 楷書と比較したときの行書の特徴（筆順の変化や点画の省略など）を身に付ける。 文房四宝それぞれの用具や用材の特徴を理解し、書道学習についての基本的な取り組み方を再確認し、実践的に書いてみる。
No. 2	漢字の書 漢字の成立と変遷 古典に基づく学習 楷書 欧陽詢「九成宮醴泉銘」、虞世南「孔子廟堂碑」の鑑賞と臨書		第 2 回 （6/30）	第 2 回 文字の成り立ち、漢字の変遷、中国との歴史的な関わりを学習し、漢字の古典的価値について理解を深める。 唐の四大家（欧陽詢、虞世南、褚遂良、顔真卿）それぞれの人物、歴史的背景を理解し、楷書の書風、書体の違いを鑑賞し、自己表現に昇華する。 初めての臨書を体験して、欧陽詢の背勢の字形など楷書の多様な用筆・運筆の技法を身につける。
No. 3	行書 王羲之「蘭亭序」と空海「風信序」の鑑賞と臨書		第 3 回 （7/30）	第 3 回 行書の美とその表現方法について関心を持ち、行書の基本的な用筆や運筆方法を身に付け、それを生かした表現をする。 王羲之については書聖といわしめている数々の王羲之伝説や、蘭亭序の【之】の違いを理解する。 空海については弘法大師にまつわること

				わざを学習する。
No. 4	草書 智永「真草千字文」の鑑賞と臨書 隸書 隸書の基本用筆と特徴 「曹全碑」の鑑賞と臨書	第4回 (9/30)	第4回	草書の真草千字文の鑑賞と臨書を通して、草書と楷書の書体の違いを理解し表現する。
			第5回	隸書の曹全碑の鑑賞と臨書を通して、隸書の特徴でもある蔵鋒、波磔、扁平な字形を理解し表現する。
No. 5	仮名の書 仮名の成立と発達 いろは歌の鑑賞と臨書	第5回 (10/30)	第6回	仮名の書の美しさや変遷、特徴を理解し、字形を整えて伸びやかな線で表現できるようにする。 いろは歌の鑑賞と臨書を通して、字源の理解と細筆での表現を習得する。
No. 6	漢字仮名交じりの書 はがき（暑中見舞い、年賀状）作成 宛て名、住所の書き方、手紙の構成 実用書道の学習 のし紙の違いについて のし紙や贈答の上書き（小筆）	第6回 最終提出： (11/30) 提出予備日：(1/15)	第7回	古典や古筆の学習を通して習得した知識・技術を生かし、筆ペンを使用しはがきを作成し、友達と比較しあう。 封筒やはがきの宛て名や住所等の書き方について学習する。
			第8回	のし紙や贈答の上書きの違いについて学習し、日常的な場面で使われるのし紙や贈答の上書き、自分の名前などの毛筆筆ペンの学習に取り組む。取り組んだ結果を発表する。

2 評価の観点

知識・技能	テストの結果で評価します。
思考・判断・表現	レポートの最終問題で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	スクーリング時に取り組む姿勢や、成果物で判断します。 ※メディア視聴の成果もこの観点で評価します。

3 評価の方法

上記の観点に基づき、年度末に5段階で評定を出します。 【知識・技能】テスト結果（7割） 【思考・判断・表現】レポート最終問題（2割） 【主体的な態度】スクーリングの時の成果物（1割）
--

4 担当者からのメッセージ

書道Ⅰでは、スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価します。この科目では、外界の様々な刺激や表現されたものに対して鋭敏に反応する心の働きを養い、価値や心情を感じ取る力をつける特訓を行います。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。